

～ともに歩み ともに成長する～



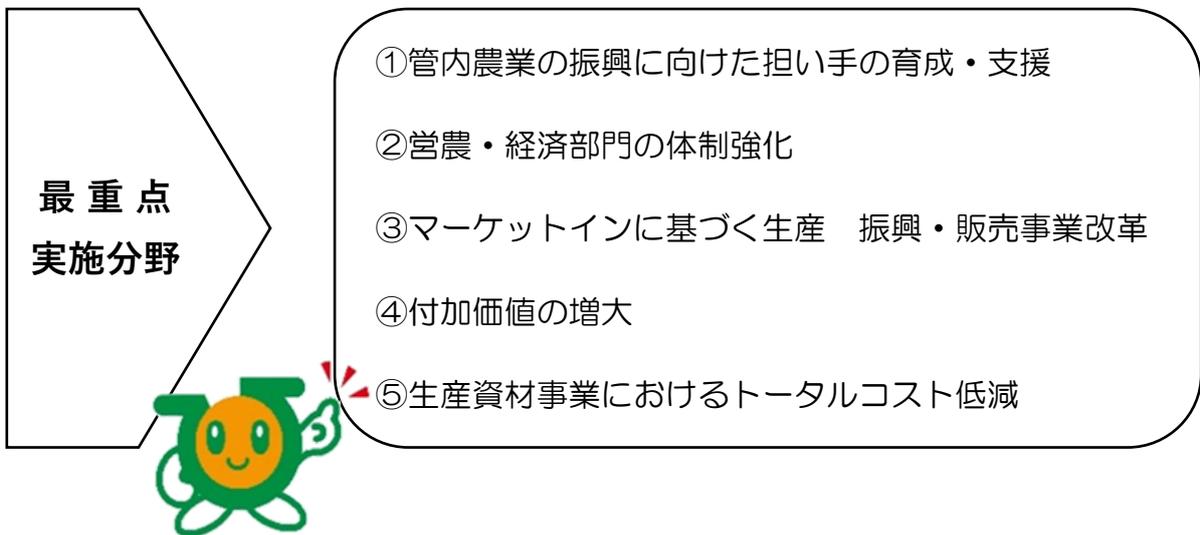
平成28年度より3カ年で進めてきた自己改革。

現在、農業・農協を取り巻く環境は3年前と同じように厳しい状態が続いています。また、平成30年7月には激震災害にも認定された西日本豪雨の爪痕は大きく、農業農村に大きな影響を及ぼしました。愛媛県の農林水産業全体で643億円と平成最大の被害となり、管内でも野村町・明浜町を中心に農地・作業道・スプリンクラー等の施設に甚大なる被害を受けました。まだ復旧の道半ばであり、時間はかかると思いますが今後もJAグループを挙げて復旧、復興に取り組みます。

その中でもJAひがしうわでは、引き続き「農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化」を基本目標とし、事業を展開していきます。

JAの存在意義が問われている現在、地域にとって必要不可欠な組織となりえるように中期経営計画を基に進捗管理を進め経営の改善、一層の合理化を図っていきます。

農業、JAを取り巻く環境が大きく変化していく中でも、総合事業の展開により自己改革を実践してまいります。



3年後の目標

販売	販売品販売高	54億円
	(内 米穀4億円・野菜6億9千万円・果実2億5千万円)	
購買	購買品取扱高	22億円
	(内 生産資材19億円)	
金融	新規農業融資額	1億8,000万円
	JA貯金残高(個人貯金)	725億円
共済	提案先数	3,500世帯
	JA共済新規加入者数	400人

実践項目

	実践内容	令和3年最終目標
農業者の所得増大・農業生産の拡大	・担い手農業者の経営支援	経営管理20戸
	・出資法人による研修生の受け入れ	3名
	・サポーター農家の組織化	10件
	・TAC活動による担い手農家支援 ※TACとは、日々出向き、担い手とJAを繋ぐパイプ役	50件/月
	・生産履歴記帳台帳の整備	100%
	・インターネット販売の活用	5商品
	・精米施設の機能を拡充し、販売高を増加させる(色彩選別機導入)	1台
	・耕畜連携等による利益の拡大	160ha
	・新たな生産者の確保	10件
	・自給飼料生産拡大に向けたWCSの活用	ラップ数2,000個
	・地元企業への原料供給	500万円
	・地元企業や女性部との連携により連携企画品の創出	2品目
	・系統施設等を活用した繁殖母牛の増頭(常時飼養頭数)	50頭
・預託頭数の拡大による戸当たりの搾乳頭数の増頭	420頭/年	
地域の活性化	・通信販売の充実によるくらしの支援	1,100人/年
	・れんげ市場をメイン会場にイベントを開催	年1回
	・地域の児童参加による食育教育(あぐりスクール)	年5回
	・地域女性を中心とした地域の活性化(女性大学)	年5回
	・学校給食への食材対応	10品目/年
組合員・地域とされる満足の向上による必要	・営農部門との連携による積極的な農業融資	10件/年
	・ローン(住宅ローン・農業融資など)ご利用者訪問	100%
	・営農部門との連携による担い手への訪問体制	50件/年
	・大口取引先への定期訪問	全戸訪問
	・JA貯金を通じた新規先・次世代へ向けた訪問	取引数10%アップ
	・JA共済新規訪問活動の展開	1,000件
	・JA共済未加入者への訪問による利用者の拡大	400人
	・JA共済加入者への定期訪問	加入者全員
	・「No.1」の安心と信頼の提供	総合満足度95%
・現場急行サービスの拡充	現場急行率50%	